調査2

若手日本語教師が直面する
中国語アカデミック・ライティング不安の実態

田　佳月
西安外国語大学
2022年10月29日

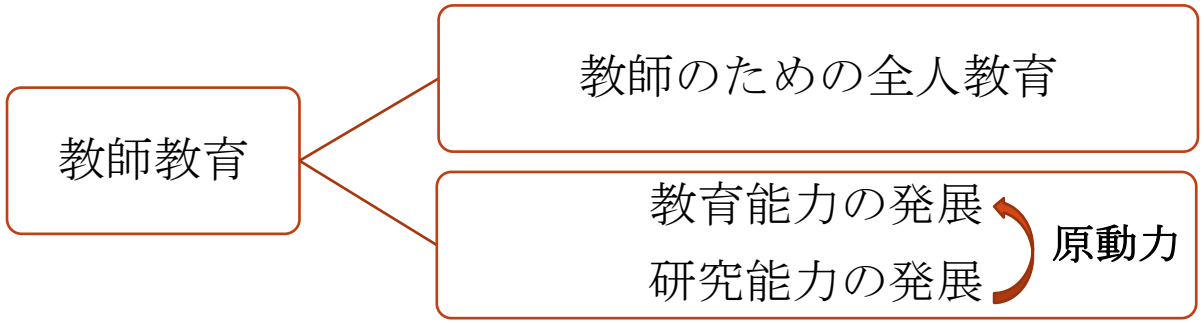
1. 研究背景

近年、中国の「世界一流大学・一流学科」建設及び「新文科系」建設を背景にし、大学の日本語専攻をめぐる状況が大きく変化してきている。日本の大学で博士号を取得した若手教師が急速に増加し、彼らにとっては最大の研究成果を上げることが最も重要な使命になっている。

一方、日本から帰国した若手日本語教師は日本語で学術的なトレーニングを受けてきたゆえに、中国語による学術リテラシーをほとんど持っていない。そのため、学術的な発展において大きな課題に直面していると予想される。

そこで、本研究は、日本の大学で博士号を取得した若手日本語教師を対象に、中国語のアカデミック・ライティングにおいて抱いた不安がどのようなものであるかを明らかにする。

2. 先行研究
－日本語教師の教師教育について



尹松（2011a）：若手日本語教師の研究の動機付けを調査
→研究動機の形成過程は研究に対する情熱に左右される。

尹松（2011b）：中堅日本語教師の研究の動機付けを調査
→内的動機付けは教育と学術の問題を解決するためであり、または研究による達成感を得るためである。外的動機付けが主にキャリアアップ、職名、収入、業績などのためである。

張麗梅（2017）：日本語教師の現状とニーズを調査
→教育活動と研究領域にずれがあり、教育と研究の関係について二項対立の考え方を持つ日本語教師が半分近くいる。また、研究能力の不足がキャリアのボトルネックにもなっている。

用語の定義

不安は神経が高まることにより、緊張したり、心配したり、そわそわしたり、イライラしたりするという感情である。（Horwitz et al. 1986 ）

ライティング不安は個人がライティングの過程において感じる恐れや不安のことである。（Daly & Miller 1975）

アカデミック・ライティングは、学習や研究など学術的な目的のための文章及びその作成である（二通他2004）。本研究において、学術論文の執筆や投稿など、一連の行為を含めて広く捉える。

アカデミック・ライティング不安を、学術論文の執筆や投稿などに関わる気がかりや心配と、それによって引き起こされる緊張や焦りなどと定義する。

3. 調査概要

調査時期：2022年9月-10月

調査ツール：オンライン調査

調査協力者：日本の大学で博士号を取得し、帰国して3年以下の若手日本語教師3名

調査方法：半構造化インタビュー、PAC分析

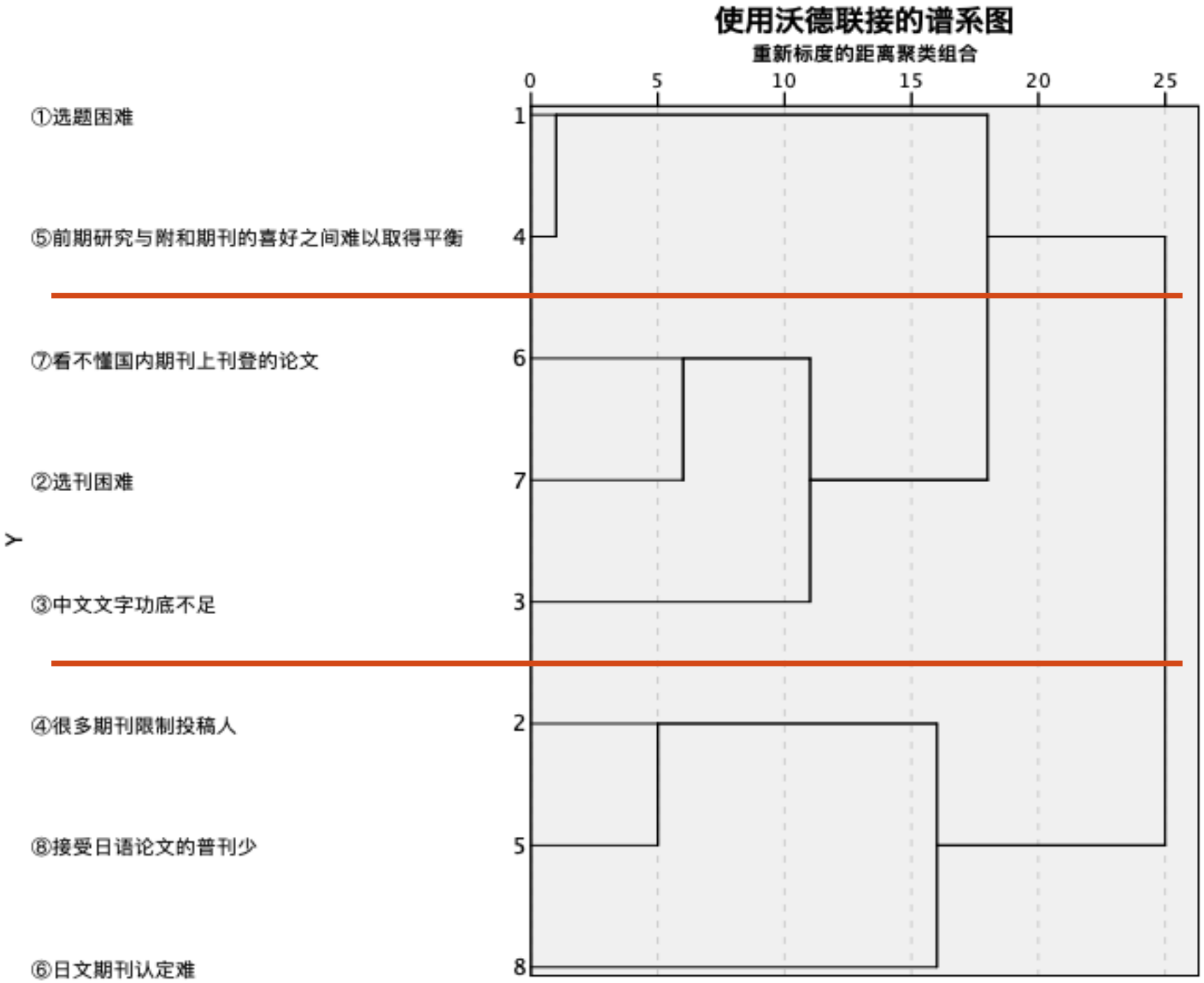
調査時間：一人当たり1時間半から2時間

使用言語：中国語

4. 調査結果

調査結果

教師A


使用沃德联接的谱系图
重新标度的距离聚类组合
0
5
10
15
20
25
①选题困难
⑤前期研究与附和期刊的喜好之间难以取得平衡
⑦看不懂国内期刊上刊登的论文
②选刊困难
③中文文字功底不足
④很多期刊限制投稿人
⑧接受日语论文的普刊少
⑥日文期刊认定难
1
4
6
7
3
2
5
8
Y

クラスター1：いかに学会誌の好みに合わせるか

- ［重要度1］テーマを選ぶことが難しい（–）
- ［重要度4］これまでの研究を続けるか投稿先の好みに合わせるか分からない（–）

クラスター2：中国語の学会誌に対する認識の不足

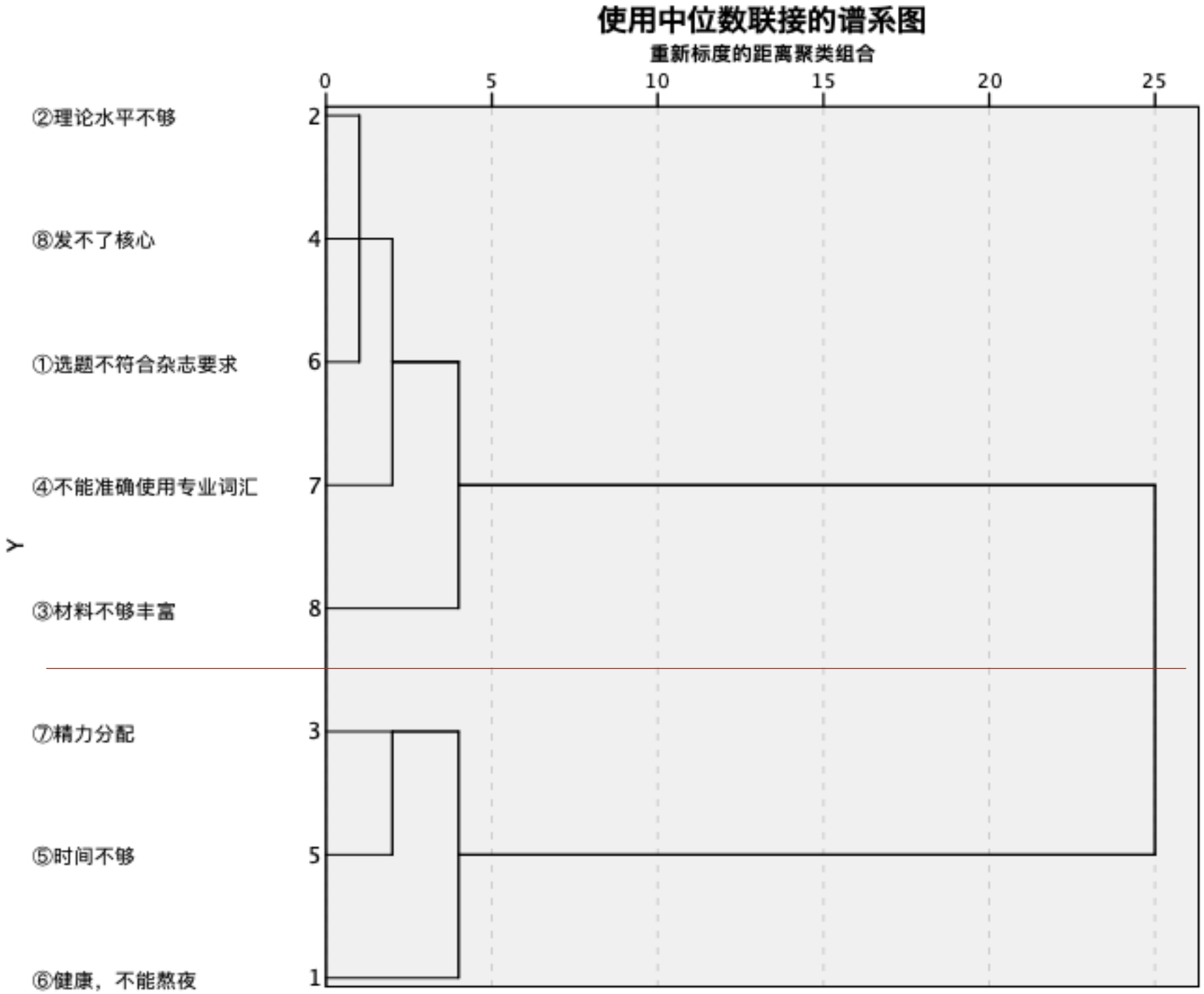
- ［重要度6］学会誌に掲載された論文が理解できない（–）
- ［重要度7］学会誌を選ぶことが難しい（–）
- ［重要度3］中国語の表現力が不足している（–）

クラスター3：投稿の難しさ

- ［重要度2］多くの学会誌は投稿者の身分への制限がある（–）
- ［重要度5］日本語に関する論文を受け入れる学会誌が少ない（–）
- ［重要度8］日本語の学会誌が認定されにくい（–）

調查結果

教師B


使用中位数联接的谱系图
重新标度的距离聚类组合
0
5
10
15
20
25
②理论水平不够
⑧发不了核心
①选题不符合杂志要求
④不能准确使用专业词汇
③材料不够丰富
⑦精力分配
⑤时间不够
⑥健康，不能熬夜
2
4
6
7
8
3
5
1
Y

クラスター1：アカデミック・ライティング能力向上の必要性

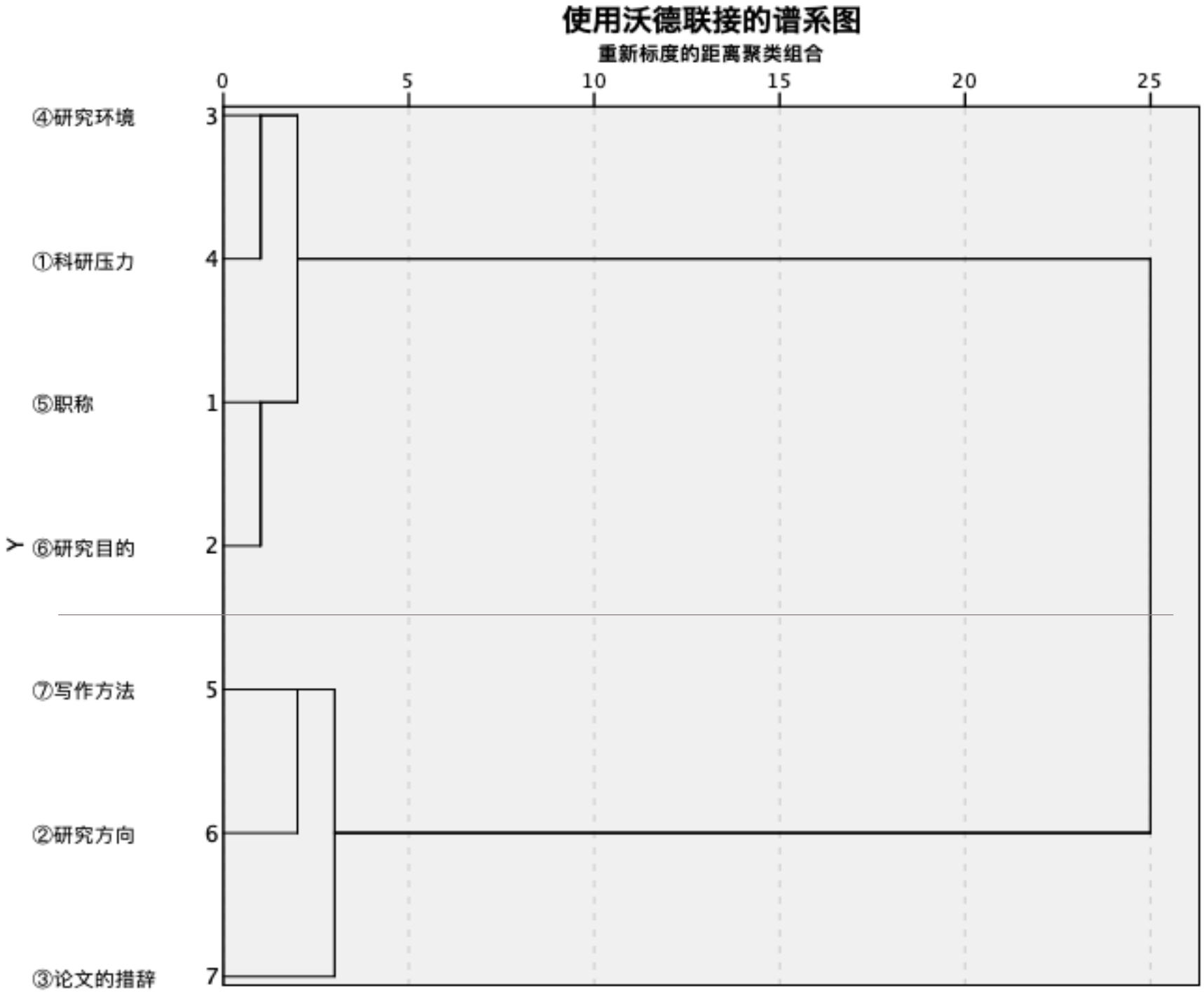
- ［重要度2］理論の把握が足りない（-）
- ［重要度4］コアジャーナルに採用されない（-）
- ［重要度6］テーマが学会誌のスコープに合わない（-）
- ［重要度7］専門用語を正確に使用できない（-）
- ［重要度8］データが豊富でない（-）

クラスター2：健康と時間

- ［重要度3］仕事に対する気力の配分（-）
- ［重要度5］時間が足りない（0）
- ［重要度1］健康問題、徹夜してはいけない（-）

調査結果

教師C


使用沃德联接的谱系图
重新标度的距离聚类组合
0
5
10
15
20
25
④研究环境
3
①科研压力
4
⑤职称
1
⑥研究目的
2
⑦写作方法
5
②研究方向
6
③论文的措辞
7

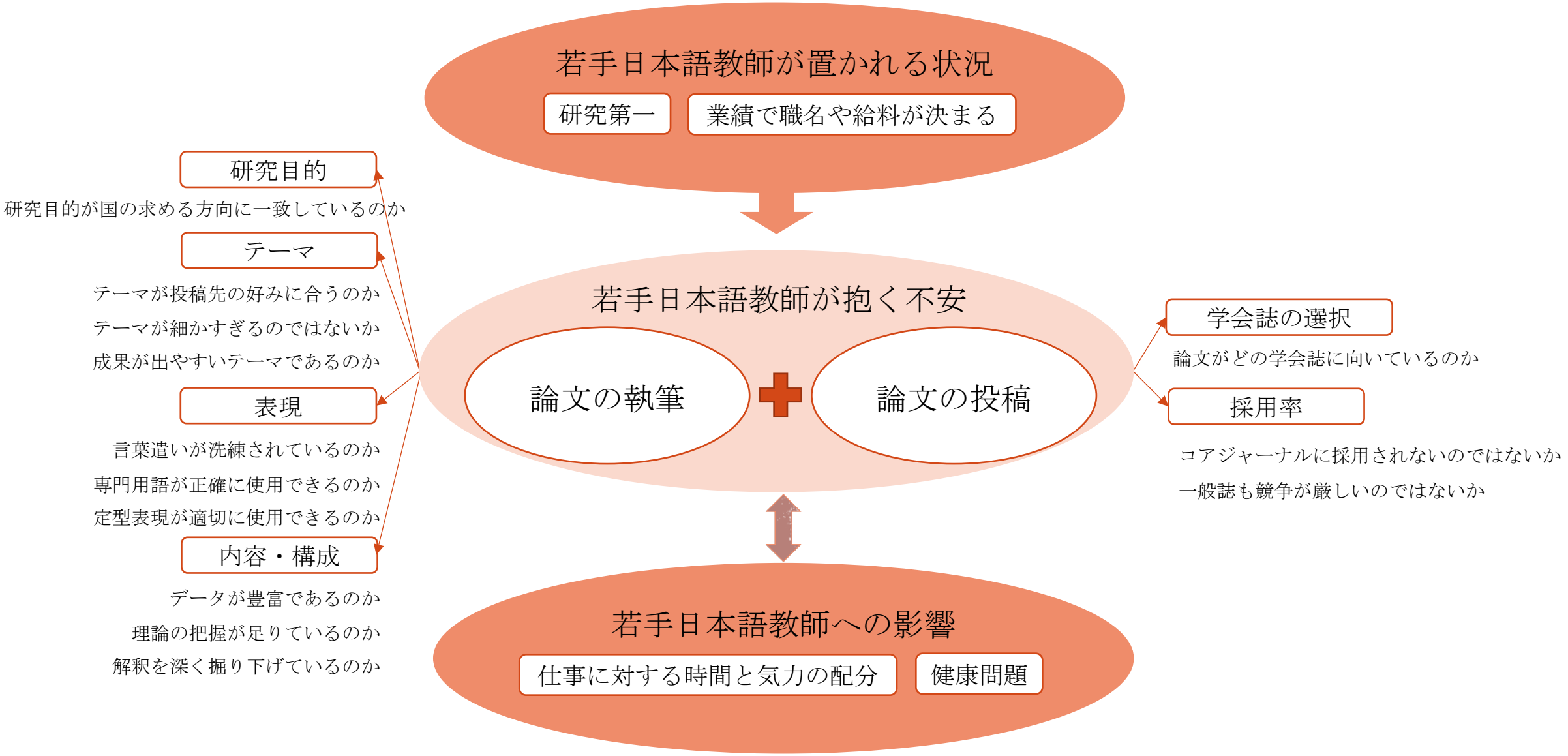
クラスター1：大学の若手教師が置かれる現状

- ［重要度3］研究の環境（-）
- ［重要度4］研究のプレッシャー（-）
- ［重要度1］職名（0）
- ［重要度2］研究の目的（0）

クラスター2：論文の執筆過程における問題点

- ［重要度5］論文の書き方（-）
- ［重要度6］研究のテーマ（-）
- ［重要度7］論文の表現（+）

5. 考察とまとめ


若手日本語教師が置かれる状況
研究第一
業績で職名や給料が決まる
研究目的
研究目的が国の求める方向に一致しているのか
テーマ
テーマが投稿先の好みに合うのか
テーマが細かすぎるのではないか
成果が出やすいテーマであるのか
表現
言葉遣いが洗練されているのか
専門用語が正確に使用できるのか
定型表現が適切に使用できるのか
内容・構成
データが豊富であるのか
理論の把握が足りているのか
解釈を深く掘り下げているのか
若手日本語教師が抱く不安
論文の執筆
論文の投稿
学会誌の選択
論文がどの学会誌に向いているのか
採用率
コアジャーナルに採用されないのではないか
一般誌も競争が厳しいのではないか
若手日本語教師への影響
仕事に対する時間と気力の配分
健康問題

- **専門用語**

日本語研究の専門用語はあまり規範的ではなく、日本語の癖が強すぎている。国内の言語学界で通用する専門用語との一致度が低く、コミュニケーションと対話の円滑な進行に影響を与えている。その結果、国内の日本語研究の成果が言語学界の主流に入りにくく、基本的な発言権も獲得しにくくなっている。

潘均（2021, p93）

日本語教育専攻の大学院生は、日本語教育分野の学術論文における非規範的表現の使用に対する心理的な受容度が著しく高く、論文執筆においてもこのような非規範的表現を使用しやすい。

費暁東（2021, p74）

採用率

日本語研究者は基本的に日本への留学や研修経験があり、日本で体系的かつ着実な専門訓練を受けている。そのため、日本側の研究に関心があり、日本の研究パラダイムに従う伝統が形成されている。結果から見ると、日本語研究者の多くは日本関係の研究者と事実上の学術コミュニティを構成しているが、国内の他言語の学者との交流が乏しいことが多い。ゆえにその研究成果は国内での影響力と被引用率も下がり、ひいては投稿の採用率にも影響する。

王昇遠（2021, p9）

海外から帰国した若手文系教師の仕事の不慣れが起きる原因：

(1) 入職前に大学の仕事の難しさに対する心の準びができていなかった。
(2) 博士課程の学生から大学教師への転換には過渡期がない。
(3) 研究テーマは中国国内の現実問題に基づいていない。
(4) 研究仲間とのコミュニケーションが不足している。

朱佳妮（2017）

6. 今後の課題

さらにデータを蓄積し、帰国した若手日本語教師の学術実践への理解を高める。

参考文献

Horwitz, E.K., Horwitz, M.B. & Cope, J., 1986, Foreign language classroom anxiety. The Modern Language Journal, 70, 125-132

Daly, J.A. & Miller, M.D., 1975, Apprehension of writing as a predictor of message intensity. The Journal of Psychology Interdisciplinary and Applied, 89, 175-177

二通信子・大島弥生・山本富美子・佐藤勢紀子・因京子，2004，アカデミック・ライティング教育の課題，『2004年度日本語教育学会春季大会予稿集』285-296

潘钧，2021，日语语言学术语规范问题再思考，《日语学习与研究》3：92-101

费晓东，2021，日语教育领域学术用语使用规范性问题探讨，《日语学习与研究》4：69-75

张丽梅，2017，中国高校日语专业教师发展现状和发展需求研究：以教学、科研与能力意识为中心，《日语学习与研究》4：47-56

朱佳妮，2017，“学术硬着陆”：高校文科青年海归教师的工作适应研究，《复旦教育论坛》15（03）：87-92

王升远，2021，中国的日语语言研究：困境、挑战与前景，《日语学习与研究》5：1-20

尹松，2011a，一项基于PAC分析的日语专业教师科研意识调查，《日语学习与研究》6：82-88

尹松，2011b，大学日语专业教师科研动因的个案分析：基于对三位副教授的PAC分析结果，《外语教学理论与实践》4:58-64

ご静聴ありがとうございました！